

学び舎通信 2月号

町内小中学校の情報を毎月お届けします



「一目千本校」への思い

12月15日に、第4学年が総合的な学習の時間で「一目千本校」に関して学習しました。当日は、「大河原町さくらの会」の方々をお招きし、ふるさと大河原町を深く愛し桜を植樹した高山開治郎氏や、その意志を受け継ぎ桜を守ってきた地域のかたの思いや願いなどの話を聞きました。児童には、先人の願いや地域住民による保全活動の思いにふれ、郷土を愛し大切に思う気持ちを更に深めていってほしいと願っています。

南小の5年生は、国際理解教育の一環として、昨年度から英国の工スコム小学校とweb交流をしてきました。そして、多方面からのご協力のもと、冬休みに5年生代表児童11人が、実際に英国を訪れました。児童は、ホームステイや日英の文化交流を積極的にを行い、互いの理解と絆を深めることができました。本訪問は日英それぞれの良さを感じ、国際感覚などを養う上で素晴らしい体験となりました。今後、様々な機会でご報告していく予定です。

工スコム小学校を訪問!



南小

スマホ・携帯・ゲームのよりよい使い方を話し合おう



1月13日委員会がありました。計画委員会では6年生が下学年にこれからも続けてほしいという思いから、スマホ・携帯・ゲームのよりよい使い方について話し合いを行いました。金ケ瀬小学校では今まで4つの約束がありました。今回話し合ってから決まったことを紹介します。

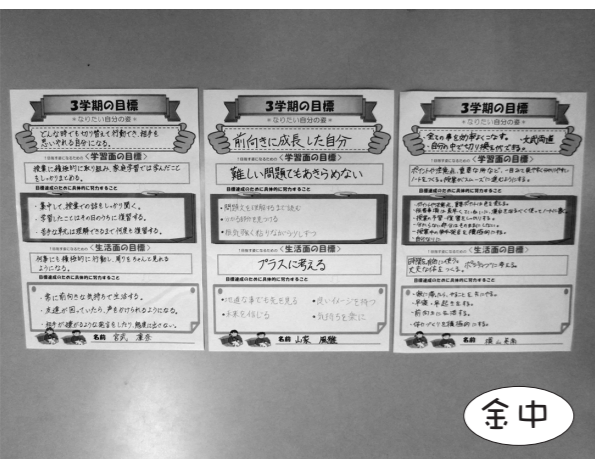
- ポプリ児童会(仲間)の掟(約束)
- 夜8時まで(8時過ぎたらしない)
- 平日は1日1時間まで
- 毎週木曜日はノーゲームデー
- ゲームは宿題や勉強をしてからゲームだけせず、外で元気に体を動かそう
- 家族と約束を決めて守る

しっかりと掟を守れるよう本気で取り組んでいきたいと思っています。



はばだけ 金中生

1月8日始業式、生徒たちは最初の学活で「3学期の目標」を発表しました。3学期終了時の「なりたい自分の姿」になるために、具体的に努力することを学習面と生活面から考えました。自分を高めるために、「時間を有効に使う」「根気強く取り組む」と書く生徒。自分を客観的に見つめ、「弱い自分に打ち勝ちたい」「プラスに考える」と書く生徒。どの生徒の表情からも新年に向かう決意が感じられました。



全中

県アンサンブルコンテスト出場

1月9日、東北大学の川内萩ホールで開催された県アンサンブルコンテストに仙南地区予選を勝ち抜いた本校のサクソホン四重奏とフルート四重奏の2組が参加しました。その結果、サクソホン四重奏が銀賞、フルート四重奏が銅賞を受賞しました。これからの吹奏楽部の活動の励みになると思っています。ご期待ください。



ハキリアリ

人類は狩猟中心の放浪生活からスタートしました。農耕を始めて定住したら、文明が飛躍的に発達したそうです。農業が人類に果たす役割は計り知れないものがあるようです。今回は、虫の世界でも農業を営んでいるアリたちの話です。もちろん、アリが畑をトラクターで耕しているわけではありません。では、どんな農業に取り組んでいるのでしょうか。代表として、熱帯地方のハキリアリを紹介しましょう。彼らは木の葉を丸く切りとって、自分の巣まで運びます。アリたちが1枚ずつ葉っぱをくわえて行進する写真や映像をご覧になったかたも多いと思います。

そのままするわけではありません。噛んだ葉っぱにキノコの胞子や菌を植えつけて、キノコが大きく育ったら食べるのです。「雪国マイタケ」よりずっと前にキノコを栽培していたわけで、アリさんもなかなかやるものですね。ほかにはシロアリたちも高いアリ塚の下にキノコ専用部屋を作っているのだとか。

また、同時に植物の茎から汁を吸うアリマキも飼っているそうです。アリマキが好む汁がよく出る茎まで運んだり、天敵からアリマキを守ったりするなどの世話をしています。その代わりに甘い蜜をもらうのです。これって、人間が羊や牛を相手にしている牧畜業そのものです。

いま人間界で話題になっているTPP問題とはまるで関係なく、アリたちは今日もせっせと農業にいそしんでいます。外国との交渉で頭が痛い政治家の皆さんには羨ましい限りでしょうね。

次回は、宝石のひつぎの中で眠る虫の話です。

元金小校長、昆虫教室(町教育委員会主催)講師 鈴木健司さん